

高須新聞店通信 お伊勢さんを知ろう企画

いせまめ通信

発行：中日新聞
伊勢市南郷店
高須新聞店①
伊勢市南郷町乙422-1
☎ 0596-24-1720
fax 0596-24-1728

毎月25日頃発行
第6号
平成24年12月24日

こんにちは！
もうすぐ今年も終わり。
新しい年を迎える準備で
売り場ではたくさんの
しめ縄をみかけますが、
玄關に一年中しめ縄をつけるのは
伊勢地方ならではの風習です。



「いせ豆知識」
第6話 1年中しめ縄をつける訳？

今回は、番外編。
どうして一年中しめ縄を
つけるようになったのか
「蘇民将来と巨旦将来」
という民話を
ご紹介しますね。

むかし、旅をしていた
スサノオノミコト
(天照大御神の弟)が
一夜の宿を
探していると、
このあたりで
一番のお金持ち
「巨旦将来」の家に
たどり着きました。

旅の途中で日が
暮れて困っています。
一夜の宿をお願いします。



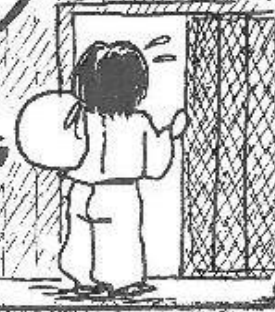
汚らしくて
貧しそうな
身なりだな。

うちは、貧しいから
泊めることはできないよ。
何度頼まれてもだめだ！
出ていっておくれ！



スサノオノミコトが、
あてもなく
歩いていると今度は
蘇民将来の家に
たどり着きました。

一夜の宿をお願いします。
したいのですが。



それはお困りでしょう。
汚れた家ですが
どうぞお入り下さい。

貧しいながらも
心の優しい
蘇民将来は
スサノオノミコトを
家に招き入れ、
粟のご飯を作って
もてなしました。



スサノオノミコトは
出発する前に
お礼として「宝の珠」を
蘇民に渡しました。

それは、心優しい人が
持つと長者になれる
ありがたい珠でした。

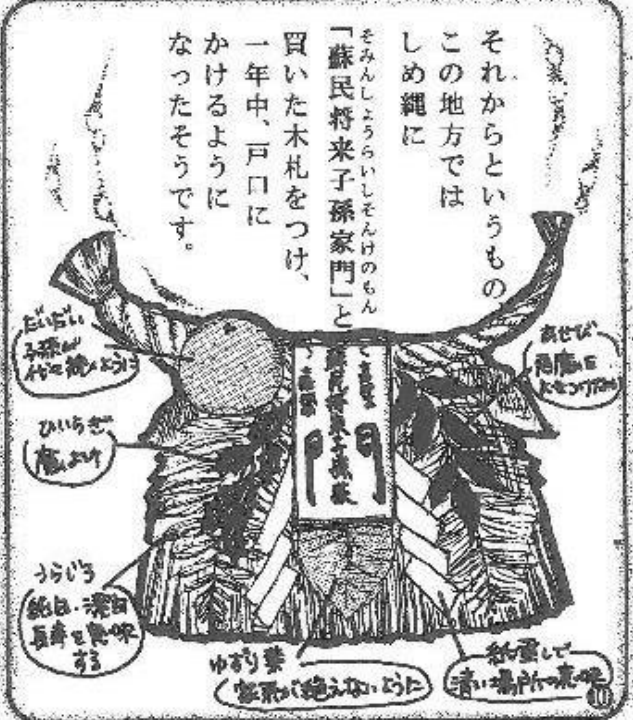


何年かしてまた、
スサノオノミコトが
蘇民の家に立ち寄りしました。

厄病などが流行ったら、
「蘇民の子孫だ」といって、
茅の輪を腰につければ、
厄病にはかからない。



蘇民将来も、そして
その子孫たちも
そのことを守り、
いつまでも幸せに
暮らしました。



*今回紹介したのは、二見町の蘇民を祀った松下社に残る 文書の話をもとにしました。牛頭天王や武塔神、スサノオは 民間では習合された神と考えられることが多いので、一般的な スサノオノミコトとしました。

木札には
他にも
千客万来
商売繁盛
笑門
などがあります。
「笑門」は
「笑う門には福来たる」に因んだものとも、
「蘇民将来子孫家門」を略して「将門」、
これが平将門に通じることから「笑門」の
字をあてたとも言われているそうです。

★この時期限定の風景！★
宇治橋の鳥居の真ん中から
日の出が見られます！
12月22日の冬至を挟んだ
10日間がベストだとか。
興味があるかたは、ぜひ!!



☆こんにちは 高須新聞店で☆
いつもご愛読ありがとうございます
民話はいかがでしたでしょうか？
伊勢地方の方は1年中しめ縄をつけますが、
正月以外でも玄關にしめ縄が飾ってある
風景は、県外の方には「？」なようです。
二見の「松下社」には蘇民が祀られています。
二見にある「民話の駅・蘇民」はこの民話を
元に名付けられたそうですよ。
新しいしめ縄を見上げながら、この民話を
思い出していただければ幸いです。
本年もあとわずかですね。(*/ω＼*)
皆さま、よいお年をお迎えくださいませ。

「第5号プレゼントクイズ」
答えは「②おみくじ」でした！
たくさんのご応募ありがとうございました!!
次号は1月27日(日)発行予定。おたのしみに